

# 先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年度	インターン番号	KB239	タイプ	公募型
派遣国	ミャンマー連邦共和国			派遣都市	ヤンゴン
受入機関	Royal Ruby Co., Ltd.				
受入機関概要 (事業内容等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品及び健康食品の輸入・販売、伝統薬の製造・販売</li> <li>・従業員：約150名、ミャンマー国内に主要拠点4カ所</li> </ul>				
派遣期間	2013年12月9日 ～ 2014年2月28日				
現在の所属先	Grant Thornton Indonesia	当時の所属先	太陽有限責任監査法人		
現在の所属部署	Japan Desk	所在地	ジャカルタ		
区分	その他	性別	男		

## 1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

自身の活動のフィールドの幅を広げたい、自分がまだ知らない新しいこと、多様なことに触れたいと以前から感じており、海外に長期間滞在したいという思いを持っていたため応募しました。

## 2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関では、会計関連の業務改善提案を行ないました。また、ビジネス環境を理解するため、工場や地方支店への訪問も行ないました。受入機関外では、ミャンマーの会計事情及び商慣行を理解するため、受入機関外部の人へインタビューをして回りました。

## 3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

派遣国の文化・社会・商習慣の理解は、当初の目標どおりに達成できました。

実際に自分で体験し、現地地で働く人から直接話を聞くことで日本からは見えにくい実態を理解することができました。また、派遣国特有のことも多く学びましたが、他の東南アジア諸国でも共通するようなことに気づくこともできました。例えば、日本にいる時には、多くの”前提”の上で仕事をしていたことに気づくことができました。日本では、インターネットはスムーズに接続でき、調べたい情報がすぐに検索できますし、法律やルールも比較的明確なものが多いです。しかし、この”前提”は他の東南アジア諸国とは状況が異なることが多いと感じました。そして、このような状況下でビジネスすることの難しさを体験できたことは貴重な経験となりました。また、インターンシップ期間中に今まで出会ったことのないタイプの人と出会うことができ、そこで出会った人達から、新しいこと、多様なことを学ばせてもらったことも非常に良かったです。

## インターンシップ風景



工場では伝統的の製造工程を体験



会社内で業務改善提案の説明中

#### 4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ派遣国とは異なりますが、現在、海外駐在員としてインドネシアに勤務しています。帰国後は、日本で元の所属先である監査法人で仕事を再開しましたが、派遣前に比べていくつか変化がありました。

例えば、派遣前は国内企業の監査をする機会が多かったのですが、国際関係の業務や監査以外の業務に携わる機会が増えました。派遣国に直結する仕事は少なかったものの、外資企業の監査や、海外進出支援、財務デューデリジェンス等を行い、日本の外に意識を向ける機会や、視点を変えて業務を行なう機会が増えました。

また、物事の捉え方、考え方にも変化があったと感じています。今まで気づくことの無かった”前提”の上に立っていることを意識するようになり、より本質的に物事と向き合うようになりました。

このような変化が嬉しかったこともあり、海外で勤務し、もっと視野を広げていきたいということずっと抱くようになり、インターンシップの帰国から約1年半後にインドネシアに駐在することになりました。

派遣国とは別の国への駐在ではありますが、インターンシップ中に、多くの人にインタビューをさせてもらい、日本と東南アジアの国の違いという部分の理解があったため、駐在開始時の戸惑いが少なかったと感じています。もちろん、全く同じというわけではないですが、同じ東南アジアということもあり、インターンシップ中に派遣国で感じたことは、インドネシアでも活かすことができます。

また、インターンシップ中に会った人達に、派遣前には知らなかったこと、人をたくさん紹介してもらったことで、自分の知らない世界を知り、応援したいと思える人達にも出会うことができました。例えば、海外で活動するNPO法人や一般社団法人の人に出会えました。この人達の活動を身近で感じられたことも、自分自身が今後日本だけでなく、海外もフィールドとして仕事をしたいと、継続的に思わせられるきっかけとなったため、インターンシップに参加したことが、海外に目を向け続ける動機付けとしても活きています。

インターンシップでの経験が、今の自分の環境にどれだけ作用しているか測ることは難しく、間接的で複合的な要素も多いですが、大きく作用していることは間違いないと感じています。

#### 5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

私自身は、派遣前、インターンシップ中にどんなことが得られるかということがすごく大切で、ここを重視しなければいけないと感じていましたが、実際には、派遣中よりも帰国後に、インターンシップに行ったことをきっかけで色々な変化が現れてきました。インターンシップ中に明確な成果を挙げることも大切だと思いますが、振り返ってみると、私にとってこのインターンシップは、インターンシップ後の活動のためのきっかけを多く得た期間であったと感じています。アンテナさえ張っておけば、自分でも思いがけないきっかけにたくさん出会えるので、参加したい気持ちとその環境が整っているのであれば、是非参加されることをお勧めします。